



れた事である。チシマザサがハイマツ帯へ侵入したのは地球の温暖化にあり、その元は人間の生活にあり、人間が生きてゆくには化石燃料を燃して、温室効果ガスを排出する。地球が暖まり大日岳のハイマツが枯れ絶滅してしまった。

大日岳、御西岳にもっと高さがあれば、チシマザサが入ってこれない高さ迄、ハイマツは逃げて行ったのであろうが、高さが無く逃げ場が無かった。土の無い空中ではハイマツも根を張れない、どうしようもなく絶滅の道を辿った。

故池上先生、石沢進の両先生から大日岳御西岳のハイマツの写っている写真がないか、探してくれとの依頼を受けて10余年になるが、未だに見つかっていない、登山の際の記念写真でもよいが、背景にハイマツが写っていれば立派な証拠写真となる。大日岳、御西岳の間にハイマツ帯の在った証拠写真を是非入手したい。撮影年代が判れば更に資料価値は増す。御西岳、大日岳が写っていれば最高の証拠資料となる。

ご一報いただければ写真の複写に参上いたします。複写させて頂くだけですアルバイムから外す必要もなく写真を損傷する恐れもありません。宜しくご協力の程、お願い申し上げます。

チシマザサ藪の中に白骸骸として横たわるハイマツの残骸の記録写真は石沢進先生が保存されており、10月に所用で訪問したおりに、大日岳、御西岳の生きの良いハイマツの写真の入手再度頼まれた。鶴首待一報。

人間が生存し、生活していれば温室効果ガスの発生は避けられない。今使っている自動車は全部使用禁止、化石燃料も一切禁止、都市ガス、電気、水道等のライフラインが一切が止まったら人間社会は大混乱をきたすであろう。大混乱どころか人間は生存出来ないだろう。

最近、循環型社会と言われたが、新幹線も高速道路も無く、電気ガス水道等のライフラインも無かった江戸時代は、或る意味で理想的な循環型社会でなかったろうか。夜が明けたら起きる。日が暮れたら寝る。化学肥料が無いから人間の糞尿を肥料として米、野菜を作り、回虫等の寄生虫が豊富な野菜を賞味する。寄生虫のお陰で昔はアレルギー疾患は少なかったそうである。一番早い移動手段が馬に依る移動、工業製品も無かったから物を造る為の大量のエネルギーの消費も無かった。江戸時代の人間の熱量消費は現代の数百分の一であったろう。寿命が尽きたら死ぬ、管を付けて迄生きない、理想的な循環型社会であっても今更江戸時代の生活には戻れない。

可逆性の無い時の流れ、歴史の移ろいを変える事は出来ない相談であるが、自然環境に大きな影響を及ぼして現代の人間生活を見なおすときにきているのではないか。ケースビズ、ウオームビズだけでは間に合わない。

現在の大量の熱量を消費し乍ら快適な生活を送り、大量の温室効果ガスを排出し乍ら、自然保護、環境の保護を叫

ぶ、滑稽な事としか思えない。現代の快適な人間生活が大日岳のハイマツを滅ぼした。

地球が誕生してから幾つの生命が生まれ、幾つの種が滅びたのであろうか。羊歯植物が繁茂し爬虫類やアンモナイトが全盛を極めたジュラ期の生命の痕跡は化石で知るほかすべはないが、地球規模で考えると生命=種の変遷は激しく移り変わったのでなからうか。生命とは何か、と聞かれると更に判らなくなる。

間氷期の現在、氷河期の生き残りと言われている高山植物、特に飯豊の高山植物(寒冷地植物の呼び方が適切と思うが)は地球温暖化に依り、風前の燈である。大日岳のハイマツのように上が無いのであるから逃げ場が無い、逃げ場が無ければ絶滅の道を辿る。

自動車は止められない、寒ければ石油ストーブ、暑ければクーラー、自然保護、環境保護を声高に唱え、飯豊の高山植物を保護し残したいと叫び乍ら、快適な生活は止められない。虫の良すぎる話である。

宇宙船地球号にヒトと言う種の生物が殖えすぎてアンバランスな状態になり、自然環境にヒトの生存が大きく影響をおよぼし、今その自然からそのシッペガエシを喰らっているのではなからうか。

医学の進歩は個のヒトには大きく貢献し、長寿社会をもたらした、だが種のヒトにはどうであろうか？淘汰されるべき遺伝子迄、次世代に持ち越す、種としてのヒトの弱体化を招いているのではなからうか。

又、戦争と言う一種の共食い現象、効率の良い原爆を使って、より適正規模までヒトを減少させる。恐ろしい事であるが、ヒトが生き残る一つの選択肢かも知れない。

昔、習った『質量不変の法則』『万物は流転する』が思い出される、宇宙空間の質量は不変であり、ただ形が様々に変化するだけ、と悟りを開き、達観するべきであろうか。

故池上先生のお嬢さんより贈られた、生命学者柳沢圭子著「生きて死ぬ知恵」心訳般若心経に「宇宙は一つづきですから生じたということもなく無くなるということもありません。きれいだとか汚いとかいうことありません。「空」にはそのような取るに足りないことはないのです」不生不滅 不垢不浄 不増不減

JAC 創立百周年記念講演、小野健博士の地球の持つエネルギーの前における人間の無力さ、の一節が思い浮かぶ。ここいら辺りが答えになりそうだが判らない、ケ、セラセラ全てが『空』である。 終